建築・土木
・社会基盤

身近なみちの特性を見える化する評価ツールの開発

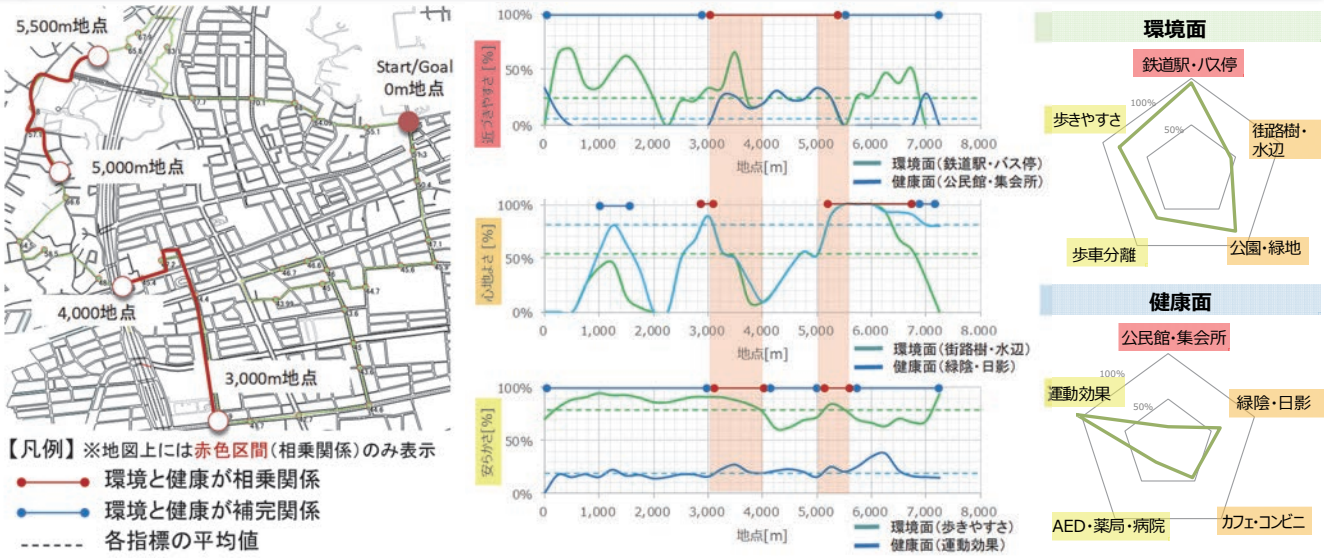
用途・応用分野

・ウォーキングに相応しい身近なみちの探索
・環境面と健康面に配慮したみちのデザインに活用
・AIやIoTを活用し、その日の気象条件や健康状態に寄り添った適切なウォーキングコースの提案

本技術の特徴・従来技術との比較

本技術の特徴：国土地理院発行基盤地図（S=1:2,500）、Google Earth（航空写真）、国土数値情報（鉄道等）のオープンデータを用いて、地理情報システム（GIS：Geographic Information System）で、みちの特性を「近づきやすさ」「心地よさ」「安らかさ」の3点から評価する。
従来技術との比較：近年、日影を優先した徒歩経路を提案するアプリ等が開発されている。本技術は、経路上の樹木や日影だけでなく、高低差による運動強度の変化や、AED・薬局・病院までのアクセス等、環境面と健康面の各5項目（計10項目）から、みちの特性を分析できる。

技術の概要



上図は、あるウォーキングコース（延長約７km）の各地点および全体的な特性を表現している。図中の赤色区間は、２項目以上で、環境面と健康面の評価がともに高い場所を示している。つまり、同区間は環境と健康の両面から、ウォーキングに相応しいみちであることを意味する。

特許・論文

＜論文＞
木下朋大、盛岡通、尾崎平：ウォーキングトレイルの環境及び健康面からの評価、環境共生、Vol. 27, pp.33-42, 2015
日本環境共生学会2016年度論文賞受賞

研究者

木下　朋大
環境都市工学部　都市システム工学科
環境マネジメント研究室

お問合わせ先
関西大学 社会連携部 産学官連携センター
TEL：06-6368-1245
MAIL：sangakukan-mm@ml.kandai.jp